

日本映画製作者協会

新型コロナウイルス対策
ガイドライン作成のための手引き

作成：協同組合 日本映画製作者協会

作成日：2020年5月29日

新型コロナウイルス感染防止策の説明と合意

感染防止

- ✓ 感染防止対策
- ✓ ソーシャルディスタンス
- ✓ 撮影時の食事
- ✓ 特記事項

健康管理と 感染時の対応

- ✓ 検温・体調確認のルールを定める
- ✓ 現場で体調不良者が発生した場合のルール
- ✓ 新型コロナ感染者が発生した場合のルール
- ✓ 個人情報の管理

体制づくり

- ✓ 連絡系統の確立
- ✓ アナウンス
- ✓ 社会的対応
- ✓ 安全管理
- ✓ 専属スタッフ
- ✓ 感染拡大の防止策
- ✓ 留意すべき点



新型コロナウイルス感染防止策の説明と合意

制作プロダクションは、作成したガイドラインに基づき、すべての作品関係者に内容を明示し、説明し、感染防止策の徹底を周知させなければならない。説明した際には、内容の合意書を交わし、以下の対策について双方の合意がなされたことを確認する必要がある。

- 双方の合意を得た上で、合意書にサインまたは押印してもらう。
- 場合により、講習会を開いたり解説動画を作成するなど、感染防止策のより深い理解を求めるように努める。

これらを行うことで、ガイドラインは実効性を持ち得る。

感染防止対策

感染防止アイテムの利用

- 通勤時から帰宅時まで、常にマスクを着用する。
- マスクは1日最低1枚。理想は食事時（を目途）に交換する。
- 手袋の利用が有効だと思われる作業では、手袋や指サックなども積極的に利用する（食事班など）。
- メイク・衣裳などの支度部は作業時にフェイスシールドを着用する。
- 声を出すパート（監督、演出部など）もフェイスシールドの着用を推奨する。

手洗い・うがいの徹底

- 集合時、作業終了時に、手洗い、うがいなどを徹底して行う。
- 消毒ジェルのあるスタンドを各所に設置して、こまめに手指の消毒をする。
＝現場、支度部屋、制作ベース、モニターベース、機材置き場、食事場所など
- 水場にハンドソープ、うがい薬などを設置する。
- 除菌ティッシュ、携帯用消毒液など携行できるものを全員に配布する。

消毒作業の実行

- 撮影作業開始前に現場（セットやロケセット）の消毒（拭き作業など）を行う。
- ドアノブ、机、椅子、スイッチ、リモコンなど手の触れやすい場所を丹念に消毒。
- 技術パートは、機材を撮影前後に丁寧に消毒する。
- 車輻部および消毒班（※後述）は、撮影中に車輻の消毒・清掃を行う。

感染防止対策

換気

- すべての映画制作工程の中で、室内での作業の際は、極力換気を心がける。
- 1時間に5～10分が理想的。
- 窓開け、換気扇、場合により扇風機を利用。
- エアコンは換気にならないので注意。

廃棄物処理

- 使用後のマスク、手拭き後のペーパー、消毒に使用した布巾などは、感染源にならないように十分に配慮して廃棄する。
- それらのゴミは、一般ゴミと別のゴミ袋に捨て、こまめに取り換える。
- 二重にしたゴミ袋に赤テープを貼るなどして、一般ゴミと区別できるようにする。
- 処理作業時はマスク・手袋を使用し、感染に十分注意する。
- スタジオ、施設、地域により「有害廃棄物」扱いのケースもあるので、そのルールに従う。

ソーシャルディスタンス

「4㎡/1人」ルールの順守

- 可能な限り、ひとりが前後左右に2メートルの空間（4㎡）を維持することが求められる。
- 制作中のすべての場所で「4㎡/1人ルール」を順守する（ひとり畳2畳分強）。
- 準備時の美打ち、衣小合わせ、オールスタッフなどは、ZOOM、Skypeなどを利用して、出来るだけ参加人数を削減する。
- オーディションなどキャスティングにおいても同様。
- 撮影におけるスタジオ・ロケセット内での最大人数を50名とする（俳優部も含む）。
- イージーアップや簡易テントなど、スタッフ・俳優が屋外で待機できる環境を作る。
- モニター台数の増加など、現場にいなくても状況・画が確認出来るインフラを作る。

移動時の車輛

車輛乗車時には、4㎡確保は難しいが、以下の項目を実行する。

- 定員の削減（乗車率50%目途）を行う。
- 移動時もマスク、窓開け、出来るだけ喋らない、など感染防止に努める。
- 自走可能な人は出来るだけ自走する。ただし遠距離や深夜の自走は避ける。
- スタッフ、俳優が満員電車を避けられるように、集合時間・場所に配慮する。

撮影時の食事

制作中の食事は、感染防止における重要なポイントとなるため、以下の項目を習慣づけることを推奨する。

飲食物

- 食事は事前に包装された状態で個別に提供する。
- ケータリングは、事前に業者と打ち合わせの上、衛生面の安全が十分に確保できる場合のみとする。
- ジョグポットは使用しない。飲料水などは個別に提供する。
- クラフトサービスは行わない。また現場へのお菓子などの差し入れも禁止。

食事場所

- 十分なスペースがあり、4㎡ルールを守れるようにする。
- スペースの確保が難しい場合は、アクリル板や段ボールなどで1人ずつの仕切りを作る。
- 出来るだけ部署ごとにまとまって食事をする（感染範囲の抑制）。
- その際も向かい合って食べないように留意する。

ほか

- 打ち上げ、地方ロケ時の飲み会などは自粛するのが望ましい。
- 会食などの際は、出来るだけ少人数で行うことを心がける。

特記事項として

俳優や支度部は現場において他者と接触する機会が多い。また俳優は、その仕事の特性上、感染に対して無防備な状況が発生しやすい。したがって両者には特段の対策が必要となる。

俳優に関する作業

- 換気や作業台の間隔など、支度部屋の環境に十分留意する。
- メイク時間の短縮のため、可能ならば俳優に事前に自前メイク（ベースメイク）をして来てもらう。※メイク部とのコンセンサスが必要
- メイク道具は、消毒をした上で、使い回しにならないように留意。
- 出来るだけ使用後に廃棄出来るアイテムを使用する。
- 俳優とエキストラは、メイクスタッフおよびメイク道具を分ける。
- 衣裳、小道具、持ち道具などは各部担当者が撮影前後に丁寧に消毒する。
- 俳優は、段取りまではフェイスシールド、マスクなどを着用する。
- 俳優は、段取り後および本番後は必ず手洗い、うがいなどを行う。
- エキストラを起用する場合は、事前に参加者の感染症対応の確認を十分に行う。
- 地方ロケの場合は、事前説明と身元確認ができる人のみ参加可能とする。

仕上げ作業

- 仕上げ作業においても感染症対策は全て実行される。
- 編集室、アフレコルーム、フォーリー、ダビングなどは環境的に「3密」が発生しやすいので、各感染症対策を実施する。
- 入室人数の制限など、各スタジオのルールを順守する。

検温・体調確認のルールを定める

健康チェック

- 全てのスタッフ・俳優は、感染症状の有無、海外旅行歴（過去14日間）、新型コロナ感染者との接触の有無を、作品合流の1週間前までにプロデューサー部に申告する。
- 全てのスタッフ・俳優は、作品合流の1週間前から1日2回（朝夕）の検温を行い、合流時にプロデューサー部に報告する。
- 準備期間も含め、参加者全員が自宅出発前に各自で検温・体調確認を行い、体調不良の場合は自宅待機する。
- 全てのスタッフ・俳優は作業場所（撮影現場など）に入る前に、非接触型体温計による再度の検温と体調チェックを実施する。
- 健康管理スタッフ（※後述）、プロデューサー部、制作部がチェックリストに基づき確認および記録を行う。
- 可能であれば、昼食時、撮影終了後など複数回行う。
- マスク着用による熱中症にも注意し、各自に対策を促す。

個人情報の管理

- 上記の行為で知り得た、体温、体調、行動歴などの情報は、必要最小限のスタッフのみが管理し、情報管理に努める。

現場で体調不良者が発生した場合のルールを定める

対応

- 体調不良者が発生した場合は、健康管理スタッフかプロデューサー部に報告する。
- 当該「体調不良者」は、速やかに医療機関と連絡を取り、その指示に従う。
- 体調不良者の現場からの移動は、基本的にはタクシーを利用する。タクシー代は制作側負担とする。
- 体調不良者は医師の診断を受け、新型コロナウイルス感染ではないことが確認されるまでは、作品制作に参加できない。
- その確認は、医師の診断書またはそれと同等の書類をもって確認とする。

個人情報の管理

- 上記の行為で知り得た、体温、体調、行動歴などの情報は、必要最小限のスタッフのみが管理し、情報管理に努める。

☆体調不良の定義

- 発熱、咳、全身倦怠感、息苦しさ等いずれかの症状がある。
- あるいは、検温し体温が37.5℃以上ある（無症状でも）。
- 明らかに既往症、持病などによる上記以外の症状の場合は、プロデューサー部が本人と相談の上で対応を判断する。

新型コロナウイルス感染者が発生した場合のルールを定める

感染者の発生は、作品関係者全員の健康に関わり、また出資者および制作会社の経営にも多大な影響を及ぼし、同時に、社会的な影響も大きい。下記の措置を迅速に行うことが求められる。

対応

- 体調不良者が、PCR検査など信頼できる検査により陽性が確認された場合、当該「感染者」は、その旨を速やかにプロデューサー部に報告する。
- プロデューサー部は映画製作者と協議の上、撮影を中断する。なお、中断する期間は保健所などの指導に従う。
- 全関係者は、保健所などのヒアリング（濃厚接触者の確認）に協力する。
- 保健所に濃厚接触者と認定されたものは、その指示に従う。その他の者は自宅待機とする。
- プロデューサー部は、映画製作者と連携を密にし、撮影継続の判断を仰ぐ。

個人情報の管理

- 感染者の氏名・年齢・性別・職種・行動歴などの情報は、極めて慎重に扱うべき情報であり、プロデューサー部のみが管理する。
- 全関係者は、感染者に関して知り得た情報を、みだりに口外しない。

ほか

- あらかじめ、撮影地域の医療機関と連携し、即座にPCR検査を受診できるシステムを構築することを推奨する。
- 新型コロナ肺炎に関する保険情報をスタッフ・キャストに周知、共有する。

新しい映画製作に向けての体制づくり

連絡系統の確立

- 多人数が集まる機会を減らすため、組の情報・意思統一を円滑に行える連絡系統が必要となる。
- また、連絡網を作成し、緊急時には連絡網によって報告・通達が行われるようにする。

アナウンス

- 感染予防、消毒などの様々な「新たなルーティン」を、ポスターや貼り紙などで周知させることに努める。
- 感染を拡散させる危険性に関する情報などは、同じく貼り紙などでアナウンスする。

社会的対応

＜撮影地近隣への配慮＞

- 集団がいるだけで警察への通報の対象になりかねないことを、全関係者が理解する。
- 都道府県を跨いで移動がある場合、フィルムコミッションなどを介して地域の理解を得るようにする。

安全管理

＜「職長・安全衛生責任者」の資格取得の推奨＞

- プロデューサー部、制作部は、安全衛生責任者の資格を積極的に取得することを推奨する。WEB講習・取得が可能。

新しい映画製作に向けての体制づくり

専属スタッフ

<健康管理スタッフを最低1名配置する>

- 撮影現場において、チェックリストに従い対策措置を確実に実行する専任スタッフを配置する。望ましくは医療従事者。

<消毒班スタッフを最低1名配置する>

- 撮影現場の消毒・感染防止のための清掃に、責任と権限を持つスタッフを配置する。
※「清掃係」ではなく、各部の消毒の実施をチェックする役割
- 撮影前後に、消毒班による撮影現場、支度部屋、モニターベース、制作ベース、食事場所、各車輦などの消毒点検を行う。
- 消毒班は、各部スタッフに消毒を実施させる権限を持つ。各部はその指示に従う。

☆いずれの専属スタッフも、腕章やビブスなどで、専任であることを明確にする。

専門業者

- 撮影現場に専属の医療関係者（医師、看護師）が常駐することが理想である。
- ただし、市中の医療資源に影響を与えないことに十分に留意すること。
- ホール、ライブハウスなど密閉され、および多くの人々が密集する空間で撮影をする場合、専門業者による空間全体の消毒の実施を推奨する。

新しい映画製作に向けての体制づくり

感染拡大の防止策

◎ 万が一感染者が出た場合の感染範囲を狭めるために、パート間の交流、行き来を減らすよう努める。

- スタッフ間の情報共有は、少人数（メイン or チーフなど）の限られたメンバーで行い、各部助手スタッフと共有を図る。
- 日替わりの応援、臨時スタッフを少なくすることで、接触人数を減らす。
- 屋内撮影の場合、可能な限り部署ごとに現場に入りセッティングする。
※美術部 → 照明部 など

留意すべき点

<現場スタッフ>

- 迅速な判断を行えるよう、必ずプロデューサー部が現場に常駐する。
- プロデューサー部は、ガイドラインに基づいた感染症対策が実施されているかを確認する。 ※チェックリストの作成
- 手で扱うあらゆる種類の現場道具を、貸与・共有しない。
※文房具、台本、ドライバー、金槌などの工具、カチンコ、テープ類、ウエスなど
- トランシーバーの取り扱い、保管方法にも留意する。
- ロケ地近隣に十分にアナウンスをして、極力理解を得る。書面など紙の配布時は紙を通した感染拡大に留意する。
- 現場スタッフは、撮影隊であることを明示する名札・カードなどをつける。

新しい映画製作に向けての体制づくり

留意すべき点

<スケジュール>

- 準備・撮影・仕上げなど、あらゆる局面で今までよりも時間と経費が掛かることを、関係者全員が理解する必要がある。
- 監督およびメインスタッフは、撮影当日のプラン変更などイレギュラーな要素を避け、円滑かつスピーディーな撮影を常に心がける。
- スタッフ・俳優の免疫力維持のため、睡眠時間を十分に確保する。

<キャスティング>

- 感染後に重症化するリスクが高い人をキャスティングする場合は、スケジュールや体調管理に特に留意する。

<エキストラ>

- 大規模なモブシーンは、現在極めて実行が難しい。
- 事前に、設定の変更や合成処理による表現など、あらゆる可能性を検討することを推奨する。
- どうしても行う場合は、スタッフ・俳優はもちろん、撮影場所の自治体（FCなど）、警察、近隣住民、および全エキストラの同意を遺漏なく得る必要がある。
- 4㎡ルールが守られる待機場所を用意し、スタッフと同様の感染防止対策を行う。

<消え物>

- 劇中の飲食物（消え物）を調理・提供する担当者は、作業時の衛生管理に十分に留意する。
- 調理器具、食器、箸置きなど小物も、使用前後に丹念に消毒する。
- 段取り、テストはダミーの消え物を使い、本番時に飲食する物を設置する。なお本番直前までラップを外さない。

<ほか>

- ロケ地近辺の病院(総合病院感染症診療可の病院など)の住所や連絡先、受付時間などを確認しておく。